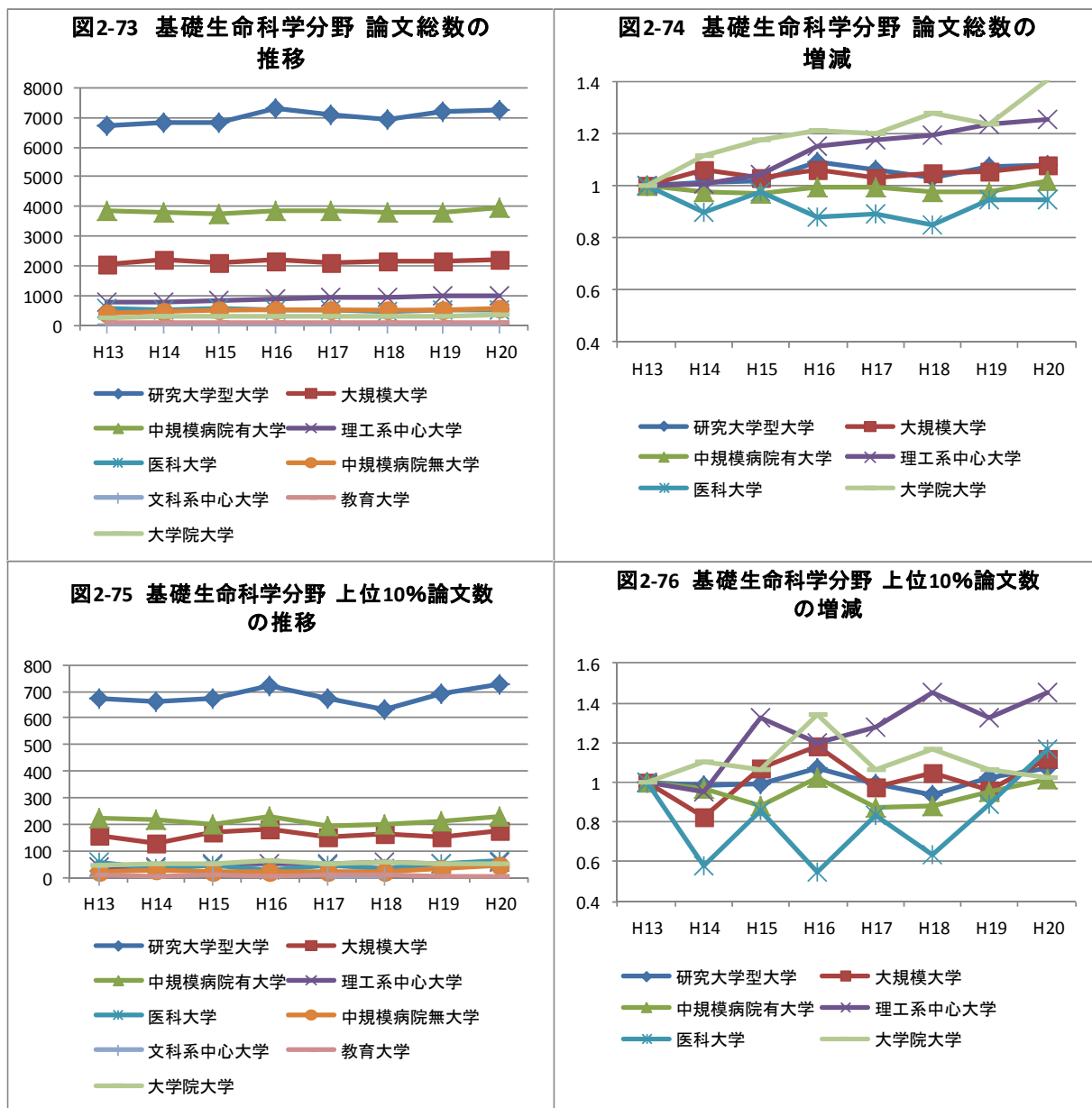


最後に基礎生命科学分野を見ると、論文総数、上位 10%論文数の双方において、研究大学型大学並びに大規模大学に較べて中規模病院有大学がやや低迷しているが、臨床医学分野と較べるとその差は小さい。また、理工系中心大学の伸びの大きさが目立っている。



(出典) Thomson Reuters 社刊行"National Citation Report for Japan 2001-2010“(NCR-J)に関する根岸正光名誉教授(国立情報学研究所、総合研究大学院大学)の調査統計結果に基づき内閣府作成。

以上を簡単に総括すれば、大学類型別に論文生産の状況を見た場合、全分野共通で見ると研究大学型大学>大規模大学>中規模病院有大学の順で伸び率に差があるが、これを大括りの分野別に見てみると、最も大きな影響を与えているのは臨床医学分野であり、その背景には2004年に行われた医師の卒後臨床研修の必修化があるものと考えられる。

■頁の表■において、法人化以降の大学類型別の本務教員の増減率が一律ではないことを見た。また本務教員の人数の規模を維持できている大学においても、旧国立大学時代の定員